

『環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

		作成年月日	平成17年 12月 27日	
		作成部署	道路総括室	
事業名	主要地方道 八幡木津線	構想番号	(土・道計) 構-17-2	
		地区名	相楽郡精華町下狛地内	
概算事業費	37億円	事業期間	7年	
事業概要	L=1060m W=6.5 (12.5) m			
関連する公共事業	関西文化学術研究都市 (南田辺・狛田地区、精華・西木津地区)			
ガイドライン		施工地の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価
主要な評価の視点				
地球環境・自然環境	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化 (CO₂排出量等) 地形・地質 物質循環 (土砂移動) 野生生物 絶滅危惧種 生態系 など	<ul style="list-style-type: none"> 計画路線は山地及び農耕地を切土及び盛土を行い、通過することとしており、沿線の野生生物の保全について、検討を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施前に、農耕地においては両生類中心、山地部においては猛禽類を中心に調査を実施し、貴重種等が発見されれば、対応策を検討することとする。 	△
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> 水環境・水循環 大気環境 土壌・地盤環境 騒音・振動 廃棄物・リサイクル 化学物質 粉塵 電磁波・電波・日照 など	<ul style="list-style-type: none"> 現道は歩道未設置区間が多いにもかかわらず、交通量が多く、しかも大型車の交通も10%以上であり、沿線における騒音・振動等の生活環境が悪いため、これを改善する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> バイパスへの交通分散により、現道の交通量減少が見込まれるため、沿線の生活環境が改善。 	○
地域個性・文化環境	<ul style="list-style-type: none"> 景観 里山の保全 地域の文化資産 伝統的行事 地域住民との協働 など	<ul style="list-style-type: none"> 本路線は21世紀を担う文化・学術・研究の新しい拠点「関西文化学術研究都市」のクラスター間を結ぶ中心道路であるため、良好で風格のある沿道景観の形成が必要である。 沿線には古墳があり、配慮が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 沿道植樹を施すなど、学研都市の景観に調和する幅員構成としている。 古墳については事業実施前に発掘調査を行い、対応を検討 	△
地域の環境像	当該地域を含む、関西文化学術研究都市では、新文化首都にふさわしい景観づくりが進められており、沿道においても良好で風格のある沿道景観の確保が必要である。			
特記事項	なし			